令和5年度結城市商業観光振興計画推進委員会議事要旨

日　時　　令和6年2月19日(月)16:30～18:30
場　所　　市役所4階　大会議室1
出席者　　小笠原委員長、飯島委員、大嶋委員、齋藤委員、柴委員、秋葉委員、藤貫委員、
　　小島委員、野口委員、加藤委員、登坂委員、飯野委員、大橋委員、
事務局　　河添部長、斉藤課長、鈴木主査、三村係長、館野主幹、木村主事、梅山主事

会議要旨
1　開　会

2　経済環境部長あいさつ
（あいさつ要旨）
　本委員会は、2019 年に策定された商業観光振興計画について、計画が予定どおり実行されているか、期待通りの成果を上げているかの評価を行う場としての役割が期待されているところである。計画策定後まもなくコロナ禍に見舞われ、計画通りに進まないことも多々あったが、これからできることを見据えて未来志向のビジョンを持ちつつ、前向きな議論をいただければ幸いである。観光業や、商工業の振興には事業者の皆様やまちづくりに携わる皆様がいかに自分事としてとらえ、行動していくかが重要である。市としても皆さまのニーズにこたえるべく、「稼げる観光」の実現に向け、種々の事業を実施していく。本委員会は、まちのキーパーソンや市を代表する観光事業者など、多士済々とした皆様にお集まりいただいたと認識している。忌憚のないご意見をお話しいただき、本市の商工業、観光業がますます活性化していくことを期待したい。

3　委員、事務局紹介
　各自自己紹介を行った。

4　委員長の選任
　前回に引き続き、委員長に小笠原委員、副委員長に飯島委員を選出した。

　委員長あいさつ
（あいさつ要旨）
　観光についても地域の経済についても、コロナで大変という段階から世の中が動き始めて、空前の観光ブームが来ている。少しでもこの大きな波が結城を潤していけるように、何をするべきかという意見や、日頃の結城の観光や処遇についての思い等、皆様のご意見をいただきたい。また、地域の皆様の声を勉強させていただくためゼミナールの学生を 4 人連れてきた。どうぞよろしくお願いします。

5　議事
議事（1）実施事業の検証について
〇検証方法の確認を行い、4 つの基本目標についての事務局評価を報告する。

議事（2）特筆すべき実施事業の報告
〇評価の参考とするため、令和5年度に実施した事業を報告する。
・結城秀康展について
⇒結城秀康を題材としたイベントを開催、刀剣乱舞 ONLINE とコラボレーションを実施
・結城家物語－結城ひかりの陣－について
⇒結城家を題材としたライトアップやプロジェクションマッピング等のイベントを開催
・着地型旅行商品販売について
⇒稼げる観光を実施するため、9つの商品造成、販売を実施

議事（3）委員会構成団体の取組等報告、評価に関する意見
〇議事（1）（2）の報告を踏まえたうえで、各委員から意見を徴収する。

大橋委員：去年の10月から12月に、茨城DCがあった。大井川知事と話した際に、DCにより茨城県がすごいことになってるという話があったが、結城の雰囲気はどうだったのか、皆さんの意見を聞きたい。また、川越の外国人観光客数が去年と比べ6倍増えているというニュースを見た。情報発信において、ただ情報をあげるのではなく、若い人のアイディアを使って、いわゆるバズるという様な状況を作ることが必要だと思う。京都がオーバーツーリズムになり、東京から電車ですぐ行ける場所に観光客が殺到しているが、それらはインターネット上の情報だと思うので、情報発信の方法を模索していくと良いと思う。

小笠原委員長：DCで盛り上がったかと思うが、重要なのは、後の集客に繋がっているか、商業として成立するかという部分である。川越が盛り上がっているのは、東京から日帰りできる日本の面白い街に選ばれているからである。同様に鎌倉が入っており、恐らく、東京の人が勧める日本らしい街で、神奈川ならここ、埼玉ならここ、というように挙がっており、東京の人たちにどこを勧められるかが今の地方都市のポイントだと思う。そこにどう結城の名前を入れてもらえるかが本来この委員会で頑張るべきポイントかもしれない。

大橋委員：そう思う。例えば、大井川知事に聞くと、高齢者がテレビの CM を見て笠間へ栗を求めて行ったり、外国人が竜神峡などの県北の自然を見に行っており、オーバーツーリズムに近いことはあったのかなと思う。その外国人を引き付けているのは、ネット上の情報だと思うので、若い人や外国人が選択するような、発信の仕方が必要だと思う。

小笠原委員長：実は、報道で出てくるのが山口と岐阜である。ポテンシャルはあったが今まで注目を浴びず、何十年か経って外部の人の目に触れるようになった。そうなるまで、努力やタイミングがあったのだと思う。その点では、どうすればランキングを上げていけるのか実験的にやっていくしかないと感じている。

飯野委員：DCの中で、着地型観光商品として、体験コンテンツを作って、発信と受入事業をした。味噌作り、お酒の試飲や足湯、お寺で座禅など結城の街で普段やっていることをメニューにした。街の事業所がDCに合わせて背伸びをしてしまってはいけないのではという思いがあり、 DCが終わった後も継続して事業が続けられるように、商品作りを進めた。観光として山を作っていく見方と、市の事業所として継続的に商売を続けていく中で何ができるのかを話し合えると良いと思う。

小笠原委員長：全くその通りで、単に人が来ても、全然地元に恩恵がないというのではなく、地元の多くの皆さんがリターンを得られるような事業をするべきであり、どうやって利益を出していくのかを議論したい。

大嶋委員：前回、小笠原先生から観光の質が体験に変わってきているというお話があり、結城でも色々な体験が増えていると実感している。また、結城はマイクロツーリズムに適した地域であるというお話があったが、路地裏などの歩いて行ける魅力がたくさんあると実感している。また、結城はデジタルコンテンツを使った発信の仕方が上手であり、「売り出し中」という評価はちょっと厳しい評価だと思う。すごく頑張っている印象があり、他市町村も憧れる売り出し方だと思う。

小笠原委員長：結城はいわゆる絵になる街というポジションがある。ただ、それをビジネスにできているか、お客さんを呼び寄せるツールになっているかを考えるべきである。ボランティアガイド協会の皆さんのご活動は本当に頼りなので、ぜひご継続いただきたい。

〇議事（2）についての意見
飯島副委員長：結城秀康展ではお客さんが全国各地から来て、経済効果もあったということは、前回開催時より買える物を増やしたからだと思う。今後も売れるものをどんどん増やした方がいいと感じた。結城家物語では結城でもこんなことやるんだと感じる企画でよかった。市内の他のお寺もやりたいと言い出してくれるのを期待したい。それに合わせて、お金がおちれば一番いい。

小笠原委員長：ちゃんと物を売るということをしていかなきゃいけない。お客さんに喜んでもらうために、お土産を買ってもらうとか、結城に来たという経験を形として持ち帰りたいという今の時代の要請にも応えることが必要である。地元の産品のお土産や、グッズ等、求めやすいものを増やすことが、適切な商行為として、地元の皆さんに還元されていくと思う。

飯野委員：着地型旅行商品により、体験を目的に結城に来るきっかけづくりができ、商品として各事業者に還元することができた。参加者と話す機会があり、1 人 1 人にフォーカスを当てていくと満足度の高い事業であった。圧倒的に女性が多く購入されており、他のターゲット層にもリーチするような商品を今後展開していきたい。今回、縁旅という形で展開したが、インバウンド向けに英語表記のホームページを作り直す等の取組を強化していきたい。

小笠原委員長：旅行の世界で口コミは大変強い。例えば、テレビで全国に向けて、CM を流してる化粧品と、口コミで広がる化粧品は全くチャンネルが違う。結城は、口コミで広がっていく地域かもしれないという希望がある。縁旅の方もウェブで大変魅力的なコンテンツが提供されており成果を期待したい。

―評価の確定―

小笠原委員長：事務局が行った自己評価について、原案通りの評価で決定したいと思いますがいかがか。
（委員からの質問、意見等無し）
特段ご質問ご意見等がないようでございますので、当評価で確定をさせていただきたい。

この評価は少し頼りないと思うかもしれないが、これは令和 4 年度の話である。令和5年度の春から市内でも雰囲気が変わってきて、いろいろなものが動き始めている。令和5年度の評価について今後期待していきたい。 KPI はコロナで状況が変わったため、事前に示していた定量的な評価について、うまくいかないものは当然出てくる。総合的にみて、地域的に頑張っているか、チェックができているかを、我々は吟味するだけではなく、地域の一員として見守っていきたい。

議事（4）これからの実施予定事業の報告
〇令和5年度中に実施予定の事業を報告する。
・結城物産まつり　※秋葉委員より報告
秋葉委員：私の店で、出張の味噌作りをやった際に、希望者がかなり多かったため、物産の体験ができるイベントをやろうということでこの物産まつりが始まった。しかし、体験だけをさせても、翌年以降参加者が増えていかない。重要なのは、自分でわかっているものをもっと明確に伝えていくことである。例えばうちの場合は、味噌作りの際になぜ糀を使うか、どういった形で使うかを説明し、醸造という言葉の意味も、自分で理解し経験してもらいながら伝える。自分が当たり前だと思ってることは、初めての人はわからない。一つ一つ紐解いて、教えていければもっと参加者が増え、他と差別化できると思う。

〇令和6年度に実施予定の事業を報告する。
・蔵美館開館10周年事業
⇒結城蔵美館、福井市立郷土歴史博物館、福井県立歴史博物館の 3 館連携で、結城秀康生誕 450 周年にまつわる顕彰事業を実施予定。昨年度集客実績のある刀剣乱舞 ONLINE とコラボレーションを行う。
・歴史的コンテンツ情報発信事業
⇒来年度以降も歴史を題材とした新たなステージでの集客イベントを実施予定。
・DC 関連事業
⇒DC キャンペーンのラストイヤーである 3 年目。継続していけるような仕組み作りを意識して事業を実施予定。

小笠原委員長：事務局から説明があった内容について、ご質問、ご意見があればご発言願う。最後の質問の場でありますので、ぜひご発言なかった委員さんで、ここで一言でも結構ですので、ご意見ご意向をお知らせいただければありがたい。

大嶋委員：ボランティアガイド協会の会員より意見や要望を2つ預った。1つ目は、観光入込客数についてわかりにくいため、もう少し実態を知り対策を立てて、これからの結城の観光に役立ててほしいという意見があった。2つ目は、結城に住んでいる方に、結城の文化、歴史、観光に興味を持っていただけるような政策を推進していただきたいという意見があった。

鈴木主査：観光客数の捉え方が非常に難しいということは、事務局でも認識している。例えば令和4年度の観光入込客数374，900 人のトップ3は、山川不動尊 195，000人、紬問屋街75，300人、祭りゆうき53，000人であるが、これらは主催者発表である。県内ではトップの大洗町は400万人を超えているが、最下位の市町村は、調査をするスポットがないか、15,000 人である。観光入込客数は観光部門での指標になるべき数字であるが、その指標が捉えづらいのは問題であると認識をしている。

小笠原委員長：観光入込客数は各地でカウントの方法が違う。例えば大きなアウトレットモールがある町は、アウトレットモールの利用者数を全部カウントすると県内トップになる。そのため、比較のしようがないが、経年変化でどう変わっているかは見える。結城は非常に地に足のついた数字で、この傾向から増減がよくわかるため、長期的な流れに注目したい。

鈴木主査：市民に興味を持っていただけるような政策につきましては、例えば小学生とか中学生で地域の歴史を大事にしようという教育が進んでおり実際にやっている。また、結城家物語も 3 年間連続でやらせていただき、来年度も実施予定である。お住まいの方に地域を好きになっていただかないと、おもてなしや結城の知名度をあげようという気持ちにならないと思うので、そういった事業も併せてやっていけたらと思う。

飯島副委員長：結城ロータリークラブで、毎年小学5年生に、1 冊ずつ結城秀康の歴史の冊子を配ってる。17、8年はやっていると思う。

大嶋委員：ガイド協会ではここ 2 年間、結城一高の第2学年の生徒に、弘経寺、称名寺、蔵美館のガイドをしているが、非常に反応がいい。中学生や小学生にもそういった授業をやっていただけたら良いと思う。

齋藤委員：最近、東南アジアから青森へすごい集客をしているという報道があった。なぜこの寒いときにと思うが、SNS を利用して集客している。また、委員長が言っていた岐阜は、今まで観光的にはあまり発展していなかったが、名古屋の空港や成田、大阪、河口湖等を含む縦のゴールデンルートが脚光を浴びているということだと思う。また、今年からコロナが5類になって、人は動いてるが、受け入れがいまいちである。ホテルだと 60～70%しか受け入れできず、人が間に合わないという話をよく聞く。

小笠原委員長：昨年度今年度につきましては、学生の就職先で観光がごそっと増えている。一気に観光が戻ってきたが、人的なものが間に合わないため、おそらく来年ぐらいまでこのような状況は続くと思う。

加藤委員：昨日、大阪の道頓堀へ行ったが、屈指の観光地ということで、かなり人が出ていた。結城は、観光マップを見ると観光スポットが点々としているため、もっと人がわっと集まっていれば、それに伴ってまた人が群がるのではないかと思う。場所を集約してやるのも1つだと思う。

小笠原委員長：大阪に圧倒的に人が戻ってきてる。どこかの拠点の目的のついでに行くような日帰りパッケージ作りが重要である。

小島委員：昨日、境町に行ってきたが、国道4号線沿いの道の駅に非常に人が集まっていた。結城の東にある伝統工芸館を訪れる方に、街に立ち寄って行きたいがどこに行けばよいかわからないと言われることが多い。そのため、商業施設だけではなく、もう少し大きなイベントがやってるような、人が集まる場所があればいいと思う。

小笠原委員長：境町はおそらくふるさと納税に力を入れていて、何かをやる余裕があると感じる。資金を集めるといろいろなことができるのも事実であるが、ふるさと納税は永続的なる制度になるとは思えないため、結城は地に足をつけていろいろな観光をやっていくといい。

藤貫委員：先週長野へ行った際、善光寺のライトアップにすごい人が訪れていた。混雑の理由の一つに DeNA の牧選手が、WBC のメンバーに善光寺のお守りを全員配ったという話があった。核となるものにプラスして、ストーリー性があると興味津々に人が訪れ、誘客促進できるのではないかと思う。

小笠原委員長：今の時代はストーリーが非常に大事である。SNS もただやるのでなく、どうストーリーを増やしていくのかが大事である。

柴委員：子供の頃から蔵作りが好きで国道50号線沿いに蔵カフェをオープンした。建物内には結城の観光、歴史、結城紬に関するパネル等を展示しており、国道50号線を利用して店に立ち寄った人達への観光案内所という一つの拠点になればいいと思う。

小笠原委員長：蔵カフェは当たる前夜である。カフェ好きはいい店があると飛行機や新幹線でやってくる。結城に行くと蔵のカフェがあると認識してくれた瞬間に火がつく話なので大成功を期待したい。

登坂委員：日本語教室に来ている外国人の方は、結城の歴史やお寺ではなく、ディズニーランドや秋葉原、東京に行っている。結城の街も外国人の方に知っていただきたいが、限られた時間の中で結城を宣伝するのはなかなか難しく、それが課題である。

野口委員：結城は元々観光地ではないため日常的な観光地に追い付くのは難しいとは思うが、事務局からあった様に、歴史を使ったコンテンツ作りでは非常にヒットするものがあり、DC についても、「もの」の消費ではなく「こと」の消費という部分で、体験価値を得ることで結城に矢印を向けてくれる。こうした面白い歴史コンテンツを磨いたイベントや持続可能な結城の地場産業を観光コンテンツとして磨き、両輪をうまく回していく必要があると思う。

野口委員より結城のひなまつり、結いのおとについて紹介。

小笠原委員長：結いのおとも、いい形で化けつつある。私は栃木県に住んでいるが、栃木でもあちこちで話を聞くようになってきた。フェスは、単にライブをやるのではなく、地域の人たちが裏方で入ったり、物販や飲食が入っているため、大変大きな経済効果を生む。その点では、結城が小さなところからどんどん大きくなり、いい意味で化けて続けていくと、「結城といえば」というぐらいの名前がついてもおかしくない。地元の皆さんも、こういった取組を市内外に向けてお伝えいただきたい。

その他、追加でご意見等ありましたらご発言いただきたい。
（委員からの質問、意見等無し）
ではこれにて本日予定した議題が終了いたしました。本委員会の議事を終了します。

― 議 事 終 了 ―

4　その他
　〇連絡事項
　・今後の予定の連絡

5　閉会